

清水龍栄著「経営者能力論」千倉書房 1983年5月10日刊を読む

企業成長と経営者の役割

1. (1) ①企業経営の目的は、長期に維持発展することである。
 - ②資本主義社会の中で企業が長期に維持発展していくためには、利潤を獲得蓄積していかなければならない。
 - ③この企業の利潤の源泉は企業内の人々の創造性の発揮にある。
 - (2) ①経営者の創造性は戦略的意思決定に発揮され、
 - ②技術者・研究者の創造性は新製品・新技術の開発に発揮され、
 - ③中間管理者の創造性はどうしたら部下にやる気をおこさせるのかという工夫に発揮され、
 - ④一般従業者の創造性は作業手順の改善・工夫などに発揮される。
 - (3) ①これらの創造性の発揮の総合が利潤となる。
 - ②ただ長期的にみた場合、経営者の創造性の発揮が最も大きく企業利潤に貢献し、
 - ③したがって企業成長に貢献する。
-
2. (1) ①この成長を阻害する要因は、経営者が現状肯定になる現象である。
 - ②更に具体的には、安定製品に力を入れることである。
 - (2) ①一般に人間には学習過程がある。
 - ②一般従業員も、中間管理者もこの学習過程を持っている。
 - ③彼らは、同じ仕事を楽になるから同じ仕事に固執したがる傾向がある。
 - (3) ①そこへ経営者が現状肯定の考えをもつと、それが人々の同じ仕事に固執したがる性向と結びついて、組織全体を硬直させてしまう。
 - ②一方、企業外の環境は絶えず流動化する。
 - ③そこで企業はこれに対応できず成長は止まってしまう。
-
3. (1) ①このように企業成長で大きな役割をはたすのは経営者であり、
 - ②また企業成長を阻害するのは経営者が現状肯定になる現象である。
 - (2) われわれの従来からの研究によると、企業成長に貢献するは、
 - ①短期的には財務要因、
 - ②中期的には製品要因、
 - ③長期的には経営者の要因。
 - (3) 本研究は、資本主義社会の企業成長にどのように経営者が貢献するかという視点から、経営者の研究を行うものである。